



せこい人、せこい話



逢見事務局長の8

ココだけの新

「公私混同」極まれり 都民の反発招いた不誠実な対応

7月31日投開票で、東京都知事選挙が行われました。この発端となった舛添前都知事は、最後は泣きながら知事をやらせてほしいと懇願したと伝えられています。結局自らの金銭疑惑の問題について、まったく説明がないまま知事の職を去ってしまいました。

高額の海外出張、公用車使用の別荘通い、家族を伴った宿泊費の政治資金からの支出、政治資金を使った大量の美術品の購入などの疑惑が週刊誌報道によって次々に明るみになり、税金や政治資金といった公金の使い道が問題となりました。

舛添氏は木更津市での家族を伴う宿泊を「政治的会合であった」と言っていました。相手の名前や会議の詳しい内容はまったく説明しないまま、不誠実な対応が都民の反発を招き、辞任に追い込まれてしまいました。

舛添氏のあまりの公私混同ぶりに、都民もあきれました。国際政治学者で英語やフランス語も堪能、厚生労働大臣も務めるなど、その輝かし

い経歴とは裏腹に、カネの使い方があまりにも「せこい」とみんなが驚き、米紙も「seko i」としてこの問題を紹介したほどです。

参院選への影響恐れ 半月遅れの「運用損」発表

ところで「せこい」という言葉。けちくさい、ずるい、料簡が狭い、みみっちいといった意味で使われるようです。横綱が平幕力士相手に「ねこだまし」を使うと、「横綱なのに、せこい手を使うね」と言われてしまいます。偉い人はそれにふさわしい品格が求められます。でも、せこい話はほかにもあります。

国民が支払った年金保険料は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が運用しています。安倍内閣になって株への運用割合を増やしていますが、そもそも元本保証がない株に国民の大事な年金資金を大量に預けているのか議論があるところです。GPIFの運用実績は毎年7月上旬に公表されていたのに、今年例年より約半月も遅い7月29日に公表され、5・3兆円の損失という結果でした。「参院選の最中に運用損が明るみになるのはまずい」と政府

筋が判断したようです。せこい話ですが、これで年金が減らされたら国民はたまったものではありません。

今回は街で見かけた「せこい人」というのを挙げてみました。

●デパ地下の食品売り場で何回も試食を繰り返す人

「よつぱおお腹が空いていたんですかね」

●商店街の福引きで補助券9枚しか持っていないのに「引かせろ」とごねる人

「あと100円買物すればいいのに」

●街頭で配っているティッシュを1人で3つ受け取っていく人

「連合キャンペーンに賛同したのでしょか、それとも花粉症で困っていたのでしょか」

●30年前に買った扇風機をまだ使っている人

「それは我が家です。もったいないですから」

